

わがまち紹介



牛久市

独自の歴史・文化をつなぐ
牛久ブランド

楽しく住めるまちをつくり 知名度を上げ人を呼び込む

牛久市は、1954年に旧牛久町と岡田村、翌年に奥野村が合併して牛久町となり、1970年頃から東京圏のベッドタウンとして人口が増加し、1986年に牛久市となりました。そして2026年6月1日に市制施行40周年を迎えます。

交通利便性が高く、JR常磐線で都心まで約1時間、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の開通により埼玉県や千葉県へのアクセスも良好です。圏央道の4車線化も進んでおり、更なる交通利便性の向上が期待されています。地形は平坦で住みやすく、豊かな水と緑に囲まれた自然環境も魅力です。牛久シャトー、牛久大仏、牛久沼など、観光資源の面でも特徴があります。

また、市域が東西に細長いことから、地域特性が異なります。西部では常磐線の2駅を中心に市街地が形成されており、東部は農村地域となっています。東部

では高齢化が進んでおり、農業後継者不足や移動の足の確保が問題となっています。

市全体としては長年続いてきた人口増加がピークを越えており、目下の大きな課題は、若い世代をいかに呼び込むかということです。

そうした中で、私が市議会議員時代から言い続けてきたのは、「住んでいる人たちが楽しくて自慢したくなるようなまちでなければ、外から人が移り住んでくることはない」ということです。本市の知名度が高くなれば、おのずとブランド力が強化されていくと考えており、その点を市政運営で重視しています。

独自のブランドメッセージ 「親子特区!!うしく」

全国的に子育て支援の競争が激しさを増す中、本市が選ばれるためには、いかに独自性を打ち出せるかがカギとなります。子育て世代を呼び込むには、子育て



株式会社筑波銀行
牛久エリア長兼牛久支店長
中嶋 利成

牛久市長
沼田 和利 氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県牛久市です。筑波銀行牛久エリア長兼牛久市店長 中嶋 利成が牛久市長 沼田 和利氏にお話を伺いました。

て支援策の充実が近道ですが、それには財源が必要です。自治体同士が消耗戦を繰り返せば地域が衰退してしまいます。本市では、強みである交通便利性や豊かな自然と「親子」を紐付け、「親子政策が充実したまち」という新たな独自性を打ち出すことで、他の自治体との差別化を図ることとしました。

2025年10月には「親子特区!!うしく」という、親子がともに育ち合い、地域やまち全体が親子とのつながりを深めながら発展していく未来志向のブランドメッセージを掲げました。

その施策を実行するため、新たに「親子のため課」を設置しました。まずは新たな企画として、牛久シャトーと連携し、お子さまのお名前やご家族の写真をあしらった「お祝いボトル」を、出産されたご家族に贈呈しています。ねらいは、本市の特徴的な文化を象徴する存在である牛久ワインを、ご家族やお子さまに伝えることです。この企画は、地元の特産品である牛久シャトーのワインを通じて、家族の絆を深めるとともに、地域への愛着を育むきっかけを提供することを目的とした取り組みです。新しく移り住んだ方にも地域の文化をPRしながら、子育てのスタートを市とともにお祝いします。他にも、「うしく・鯉まつり」のような長年続いてきた祭りを発展させていくとともに、親子に特化したイベントを徐々に増やしていく計画です。

また、今後の施策として、ホームページ上に子育てに活かせる市民の声をお寄せいただく「親子みらいポスト」の運用や、親子交流の場を充実させる「親子ひろばプロジェクト」などに取り組んでまいります。

親子で過ごした楽しい思い出が本市への愛着となり、それが本市のブランドイメージとして市内外に浸透していくことを期待しています。



「お祝いボトル」プロジェクト

牛久シャトーを再び市民に親しまれる施設に

私の実家は牛久シャトーから徒歩3分くらいのところにあり、小さい頃から慣れ親しんできました。昔はもつと地元の人がたくさん訪れて、そこに行けば誰かしら顔見知りには会えたり、バーベキューガーデンで近所の子どもたちが遊んでいたような場所でした。また春になれば、花見をしながらバーベキューをするのが市

民にとって年度始めの恒例行事になっていました。しかし、今では市民にとって遠い存在になってしまったようです。市内に住んでいるのに、数えるほどしか牛久シャトーに行ったことがないという話を聞くと残念な気持ちになります。昔のように親しまれる場所に戻したいと心から思っています。

そもそも牛久シャトーは、山梨県甲州市勝沼地区とともに日本ワインの草創期を支え、明治期の近代産業と西洋建築を今に伝える歴史的・文化的価値の高い施設です。2007年には経済産業省から近代化産業遺産に、2008年には文化庁から国指定重要文化財に指定され、2020年には日本遺産「日本ワイン140年史～国産ブドウで醸造する和 문화の結晶～」の主要構成文化財に認定されています。

現在は、所有者のオエノンホールディングス株式会社が牛久市へ年間約5500万円で賃貸し、牛久市から牛久シャトー株式会社に転貸する仕組みとなっています。しかし、コロナ禍も一因となり収支は厳しく、この賃貸借を続けていくと牛久シャトー株式会社が市に対して毎年借金を重ねることになります。まずは事業を発展させて収益をあげ、借金を増やさないようにしなければなりません。牛久シャトー株式会社の事業再生に向けて、2024年に市長直轄の有識者会議を設置して計画案をまとめ、2025年10月に事業再生計画を市として決定しました。事業再生を円滑に進めるため、新しく「シャトー再生推進課」を設置し、支援体制を整えたところです。

再生に向けてすでに取り組んでいることもあります。2025年の春には牛久シャトー桜まつりを開催し、久しぶりにお花見バーベキューをお楽しみいただきました。実はウェザーニューズの茨城県桜名所ランキングで1位が牛久シャトー、2位が牛久大仏だったので、それも宣伝に役立っています。これまで予約受付は団体20名以上でしたが、それを4名以上に変え利用しやすくしました。また、レストランはコース料理のみでしたが、11月から特製カレーライスと特製ハヤシライスの提供を始めました。さらに、毎年開催している牛久シャトー日本遺産フェスタについて、2026年は県内ワイナリー10社が集結するイベントを茨城県と共同開催します。2026年以降は民間事業者に業務を委託する計画もあり、まずはレストランなど直接収益を生むところから導入していく考えです。2027年4月からは、市の文化観光公園とし



国指定重要文化財の牛久シャトー本館

て公設化することとしました。今まで通りのやり方を踏襲していたら発展は望めません。事業再生を機に、牛久シャトーの運営体制も進化していくことが求められます。

メディアを活用した シティプロモーション

シティプロモーションについては、映画やテレビ番組、CM等において本市の露出を増やすための取り組みとしてフィルムコミッションを推進しています。具体的には、ロケ地マップを作成し、制作会社に対する営業活動を展開したほか、撮影支援体制を充実させたことで、市内でテレビ番組等の撮影回数が増加しています。制作会社からも高い評価をいただいております、ロケのリポートにつながっており、直近では牛久シャトーにおいては大手ハンバーガーチェーンの新品CMが、牛久沼周辺においてはNHK連続テレビ小説『あんぱん』をはじめ、複数のドラマ撮影が行われました。

なお、2026年は市政施行40周年を迎えるため、様々な記念事業を企画しておりますが、その一環として「NHKのど自慢」や「開運!なんでも鑑定団」の収録を市内で行うことが決定しています。

また、アニメ作品とのタイアップにも取り組んでいます。2024年10月に放送されたTVアニメ「ラブライブ! スーパースター!!」の中で作中に登場する11人のうち鬼塚夏美さん・冬毬さん姉妹が牛久市民であることが明かされ、JR牛久駅や牛久シャトー、牛久大仏、市内の神社などが登場したことから、制作会社とタイアップについての協議を開始しました。そして、市オリジナル描き下ろしイラストの制作をはじめ、等身大パネルの設置、特別住民票の発行、市広報紙「広報うしく」と県広報紙「ひばり」の表紙を書き下ろしデザインで同時発行したほか、コミュニティバスかっぱ号についても「ラブライブ! スーパースター!!」とのコラボデザインにラッピングしたことで、お披露目式には大勢のファンが集まり、遠くはアメリカから来た方もいたほどです。

さらに、市の魅力を広く発信する広告塔として、鬼塚姉妹に「うしく広報大使」を委嘱しSNSや動画などのメディアを活用したプロモーション活動を開始したほか、鬼塚姉妹を用いた市職員の採用ポスターを制作し、採



牛久シャトー内にて

用活動にも活かしています。

作品とのタイアップにより、JR牛久駅周辺や作品に登場した施設周辺が多くのお客様で賑わうなど、多くの交流人口が生まれたことで、事業者からも喜びの声をいただいております。

子育て世代にアピールする 大型の宅地開発が進行

住宅用地の確保について、東猫穴地区で約400世帯、計画人口約1000人の宅地開発を実施しています。1998年にひたち野うしく駅が開業して以降、当駅の周辺が本市への人口流入を牽引してきましたが、この地区で供給できる宅地がほぼ埋まりつつあります。そのため住宅取得希望者が近隣自治体に流れるようになり、人口増加にブレーキがかかりました。一方、この地区の人気は依然として非常に高く、新たな宅地開発による人口流入が見込めるため、隣接する東猫穴地区で2018年から都市計画変更の調査・手続きを進め、2024年2月に市街化区域へ編入しました。2025年10月から造成工事がスタートし、2026年中には宅地の引き渡しを開始する予定です。

様々な店や施設が集まるひたち野うしく駅周辺は、生活圏として非常に便利です。また、「親子特区!!うしく」を推進する上でも、やはり子育て世代の方々も周囲に同年代の住民が集まっている住宅地のほうが住みやすいでしょう。そういう意味でも、東猫穴地区は新婚さんや子育て世代が住むのに適したエリアだと言えます。

東猫穴地区に続く新しい宅地供給についてもすでに検討を始めており、市北部地区で基礎的な調査を進めています。居住者を増やす上では雇用機会も重要になりますので、企業の事業可能性調査にも着手しました。企業誘致については、県と連携しながら取り組んでいくことになります。

ところで、ひたち野うしく駅は、1985年に開催されたつくば万博の臨時駅である「万博中央駅」の跡地を利用して1998年に開業したものです。市政施行40周年に先立ち、2025年12月28日に万博中央駅の看板を再設置しました。本市で生活する皆様に、地元の発展の歴史を知っていただきたいと願っています。

筑波銀行に期待すること

今後、東猫穴地区の宅地開発が進むと、筑波銀行さんに住宅ローン等の融資の相談が増えると思います。その際には積極的な対応をお願いします。

また、筑波銀行さんは長年地元根付き、地元企業への融資等を通じて地域経済の重要な屋台骨として役割を果たされています。今後も地域の皆様の信頼のもとに豊かな社会づくりに貢献し、本市と共に「牛久市のすてきなまちづくり」に取り組んでいただければと思っています。
(取材日:2025年12月9日)

牛久市の

みどころ!!

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。



うしく鯉まつり【春】

うしく・鯉まつりは、毎年5月上旬に開催される、子供の健やかな成長を願う祭りです。

会場には鯉のぼりが掲揚され、子供向けの昔ながらの遊びや、ステージ発表・各種イベントでにぎわいます。



うしくかっぱ祭り【夏】

うしくかっぱ祭りは昭和56年から始まった牛久市内最大の祭りです。祭りのメインである河童ばやし踊りパレード、ステージ発表や商工会出店コーナーなど、様々なイベントが訪れた人を楽しませます。

そして会場内に響き渡る威勢のいい掛け声や陽気なお囃子の商工みこしと上町山車が祭りのフィナーレを飾ります。



うしくWaiワイまつり【秋】

毎年11月3日の文化の日に開催される「街のにぎWai・土のあじワイ」をメインテーマとした産業祭です。牛久市の商工業、農業などの優れた産業を紹介し、生産者と消費者の交流を深めることを目的としており、毎年多くの人で賑わいます。豪華賞品が当たる大抽選会もこの祭りの名物です。



牛久シティマラソン【冬】

牛久シティマラソンは、牛久市が主催する市民参加型のマラソン大会です。10km、5km、3km、2km、車イス、ジョギングなど、さまざまな距離の種目が用意されており、牛久運動公園などを会場として毎年1月に開催されます。



牛久大仏

牛久大仏は、茨城県牛久市にある、高さ120mの世界最大のブロンズ製立像です。内部には展望台があり、地上85mからの眺めが楽しめます。

大仏様の足元は極楽浄土をイメージした庭園が広がり、四季を通じて数多くの花々が色鮮やかに咲き誇ります。



牛久自然観察の森

牛久自然観察の森は、全国に10か所しかない「自然観察の森」のひとつです。約24ヘクタールという広大な敷地には雑木林やスギ・ヒノキ林、池などがあり、整備された遊歩道を散歩しながら、自然に触れることができます。自然解説員が常駐しており、自然観察会や体験イベントなどが開催されています。

わがまちの特産品

うしく河童大根

茨城県知事から銘柄産地指定を受けた唯一の大根で、色が白くみずみずしさが特徴です。

昨年は、大手コンビニの野菜スティックにも採用されたほか、大根を薄くむいた長さでギネス世界記録を目指すイベント「大根かつらむき世界一決定戦」が京都市で行われた際に使用されました。

